

## WENET第7回通常総会開く 環境フォーラム2010 **11月27日(土)** 開催を決定



新年度方針を提案する重栖代表

5月22日、わかやま環境ネットワークの第7回通常総会を開催しました。

総会では、前岡事務局長の昨年度総括、収支決算報告に続き、重栖代表が今年度方針を提案しました。

重栖代表は、新年度方針について「今年度は、国内では、新政権のもと掲げられた2020年までの温暖化ガス25%削減目標の達成に向けて具体策（中長期計画）の議論が本格化します。また、前年COP15で不調に終わった、京都議定書第一約束期間後（2013年～）の温室効果ガス削減をめぐる世界の枠組み交渉が正念場を迎えます。地球環境に関する人々の関心は高まっているとはいいながら、これらを巡る政策的論議は低調で、前年COP15で見せた盛り上がりは潮が引いたようにも感じられます。私たちは、気候変動の“ポイント・オブ・ノー・リターン”（引き返せない地点）越えを阻止するために、倦むことなく、楽観も悲観も排して、地域における温暖化防止の声を着実に広げ、低炭素社会構築への歩みを進

めていかなければなりません。また、本年は、10月に名古屋で生物多様性に関するCOP10が開催されることから、自然と生態系に関する関心も高まると予想され、これを機に、自然と共生する持続可能な社会を構築する歩みを県内においても強めていく必要があります。一方、当会は、設立以来5年間にわたって、温暖化防止をはじめとする環境の運動で、様々な主体と連携を重ね、県内最大の環境団体、また県内唯一の環境ネットワーク組織として、市民の間で一定の評価を受けるに至っていますが、会の勢力の伸び悩みなど、克服すべき課題も多くあります。」と報告。

具体的とりくみとして、県内で環境に関してとりくんでいる団体（NPO、自治体、自治会、地域協議会、学校、企業）が一堂に会し、交流する「環境フォーラム2010」を11月27日（土）に片男波公園（和歌山市）で開催することを提案し決定されました。また、9月25日（土）には田辺市紀南文化会館で「紀南から環境を考える」をテーマに「環境フォーラムin紀南」を開催すること、新事業として「うちエコ診断事業」「エコチャレンジ事業」にとりくむことも決定しました。（新年度の具体的方針については別紙参照）

なお、総会后、温暖化防止地域連携セミナーを開催し、龍谷大学博士研究員の平岡俊一氏より「温暖化対策における地域資源の活用」と題し講演をいただきました。



講演する平岡氏



フォーラム会場となる片男波公園 健康館



環境フォーラム2005の様子

## 第9回わかやま環境大賞

# 串本海中公園センターが大賞を受賞

第9回わかやま環境大賞に「株式会社串本海中公園センター」が選ばれました。

6月7日（月）に和歌山市の県民文化会館で表彰式がおこなわれ、同センターが「長年にわたるマリンスクールや自然体験プログラムなどにおいて、和歌山県の自然のすばらしさを全国に情報発信するとともに、オニヒトデの駆除で本県の環境保全に寄与」したことを評価され、今回の受賞に至りました。



串本海中公園センターでは、水族館飼育、磯観察、ダイビング、スノーケリングなど体験プログラムを実施しています。また、2005年11月に串本海中公園を含む串本沿岸海域がラム

サール条約に登録されていますが、サンゴ保全活動、海洋生物調査など海を守るためのさまざまな活動を行っています。

「わかやま環境大賞」には、小水力発電施設などの研究開発を実施している「NPO紀州えこなびと」、紀の川市の「江川中ホテルを守る会」、清掃活動を通じて環境保全に寄与した「那智川を守る会」と「和歌山市立西脇中学校」、リサイクル運動とシステム構築をすすめた「田辺市立田辺第三小学校」が受賞しました。また、「特別賞」には、和歌山市の大平喜代さん、有限会社クスベ産業、株式会社小森組がそれぞれ受賞しました。（写真は串本海中公園センターHPより）



## エネルギー白書に見るトリックの構造

昨年8月末の政権交代で誕生した鳩山首相は、就任直後に出席した国連の会議で高らかに温暖化ガス25%削減の中期目標を発表、世界から大喝采を浴びたが「今は昔」だ。鳩山さんはもうその地位にはなく、大喝采を浴びた鳩山ビジョンを国内対策で裏付ける「地球温暖化対策基本法案」は国会閉会で6月16日、あえなく廃案となった。

その前日の15日にはエネルギー白書が閣議決定されている。「エネルギー権益確保」と称し、途上国の動きに警鐘を乱打して油田の囲い込みや原発推進を説く一方、再生可能エネルギーの普及については、「首位ドイツの9%、フランス・イタリア・スペインの7%に次ぎ日本は6%で、主要各国に比べ遜色ない」とさりげなく記述している。

ん～？なのだ。経団連の宣伝に騙されている人はたしかに多いが、地球温暖化問題をある程度学んだ者にとり、日本の再生可能エネルギー普及状況が先進国中最低クラスというのは一般常識の部類だ。いったいどんな手品でこんな数値をたたき出したのか？…と思って早速調べてみた結論は、「やはり…」と、腹が立つやら呆れるやら。

予想した通り日本の「6%」の正体、約3.6%が大型水力、同0.6%がゴミ発電や熱利用だった。太陽光や風力など今温暖化対策の文脈で普通という再生可能エネルギーは残る1.8%に過ぎない。同じ計算でドイツの場合は、9%のうち大型水力など1.3%

を引いても7.7%が残り、この4分の1にも満たない日本の後進ぶりが浮き彫りになる。

「大型水力発電も温暖化ガス削減に貢献するのでは？」とのご意見があるかもしれない。さよう貢献する。ということで大型水力を勘定に入れるなら、電気の全てを水力で得ているパラグアイやノルウエー、7割のブラジルや6割のカナダがなぜ「うまい具合」に比較対象の国から外れているのか。電気の100%が地熱のアイスランドなんてのもあるぞ。

白書の記述は意図して「日本は再生可能エネルギー先進国」との誤解を広げ、原発と石炭火力に固執する現状を肯定させる巧妙な世論操作にほかならない。ウソというわけではないが、データを姑息に恣意的に組み合わせる国民を欺くトリックなのだ。こんなのを国費が使われて事業仕分けもされず、閣議はすんなり通り、メディアは何も言わない。

要するにこれは、鳩山前首相の25%宣言に驚いた経済界とその意向を受けた官僚組織の反撃なのだろう。彼らは旧世界の利権を失うことを恐れる余り、低炭素革命後の新しい世界が見えていない。彼らの目を覚まさせる論理と強さを、市民は持たねばならない。（重栖）



「エネルギー白書」  
再生可能エネルギー6%の中身  
3.6% (大型水力)  
0.6% (ゴミ発電・熱利用)  
1.8% (太陽光・風力など)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

## 「産消提携」の会、8月に設立へ

地産地消や旬産旬消という言葉が耳慣れてきた昨今ですが、産消提携は「生産者と消費者が直接連携して、顔の見える関係の中で農産物のやりとりをしていくこと」です。

私たちの会は、ふるさと和歌山の自然と調和して営まれる農とその恵みが取り持つ縁を大切に育て、これに基づく新たな人間の共同体を築き上げることを目的としています。そして、この目的を達成するための学習会や親睦会、援農などに参加することと、これらの取組みに必要な一切を分担し協働で行うことを申し合わせとして、これを支持し、一定の会費を納入し、条件が許す限り積極的に参加する意志のある人によって構成されます。

今始まったばかりのこの小さな輪は、春たけなわの今年4月21日に1回目の相談会を開き、以来4回の集まりでは、毎回試験的に農産物の頒布会も行ってきました。

そして、来る8月2日、設立のつどいを開催することになりました。現在、地域の仲間を募っています。(チラシ⇒)食・農・循環型社会などにご関心のある方は、ぜひ私たちの集まりを覗きにきてください。



【名前はまだない提携の会 事務局】

NPO和歌山有機認証協会 TEL: 073-421-6545

【頒布会日程】

7/6、7/20、8/24、9/7

### 大地の恵み頒布会

名前はまだない **ていけいの会**

気候変動はすでに世界の食料生産に影響を及ぼしています。子どもたちや未来の世代がずっとこの地で幸せに暮らせるよう、私たちは、清浄な水と生き物あふれる豊かな自然、そして命を支える健康な農地を守り育て、次の世代に受け継がねばなりません。農業や化学肥料に頼らずがんばる有機農家とそれを応援する市民とが、農産物を仲立ちに手を結び支え合う提携の運動が、ここ和歌山でささやかに始まりました。関心をお持ちの方は、ぜひ以下の頒布会からお気軽にご参加ください。

農家が持ち寄った農産物の頒布会から始めています。

(基本/毎月第1第3火曜日)

日程: 7月6日, 7月20日, 8月24日, 9月7日  
 時間: 午後5時30分頃~7時頃の間  
 場所: 和歌山有機認証協会 会議室  
 tel 073-421-6545 平日 10時~17時

### 雨天決行

**8月3日(火) 午後6時**  
**紀州大地の会 紀三井寺農場**

8月3日に有機農場でこの提携の会設立とオーガニック・ビュッフェを開催します。

日時: 8月3日(火) 設立の会 午後6時~  
 オーガニック・ビュッフェ 午後6時30分~

頒布会を一定回数積み重ねた後、年会制で定期的に野菜ボックスを受け渡す体制に移行します。

**¥2,000 オーガニック・ビュッフェ! やります!**  
 ドリンクは持参

参加申込書

氏名

連絡先

参加申込は〇でかこつけてください

定額頒布会参加

8月3日  
 設立の会 &  
 オーガニック  
 ビュッフェ

エコライフ促進事業では、この間、小学校や高校などで出前授業を展開しています。スタッフの植松さんに、和佐小学校の授業の様子について報告をいただきました。

### 想像以上の関心を示してくれた子どもたち

6月11日、湿度、気温共に目眩をもよおすような気候の中、私達は和佐小学校へと赴いた。4年生を対象とした学習会の依頼である。相手が子供ということで「講義」ではなく「体験」を軸に催そうというのが私達の決意だ。子供に慣れていない私達には不安という言葉が重く申し掛かり、責任感だけが付きまとう。しかし、時間の流れは残酷で予定の時間は直ぐに訪れる。呑み込まれそうな重圧に抗いながら会場の扉を開けた私達に向かって大音声が飛んできた。

「こんにちは!」。子供の声だ。まだ開始までには幾らかあるが、先に到着して待っていたらしい。そのたった一言の挨拶で私たちの緊張も解きほぐれ、その後続々と入館してくる児童も満面の笑みで迎えることが出来た。学習会も、最初に行った水の浄化実験では感嘆の声を上げつつも目を皿の様にしてみ入り、想像以上の関心を示してくれた。和っ人くん(自転車型発電機)には行列が出来る程の盛況ぶりだったが、皆、統率が出来ており順序を守り楽しんでくれた。ゴミ分別に関しても知識が豊富で殆どの児童がPETボトルの正式分別を理解していた。5・6限を使用した学習会は双方向間に満足のいくものとして終了した。私達は汗と埃にまみれながらも今回の成功を胸に、地域住民の環境意識向上の為の活動を更に展開していくことを誓い合い、和佐小学校を後にした。(植松祐太)



「海域教室」での展示



和佐小学校での出前授業



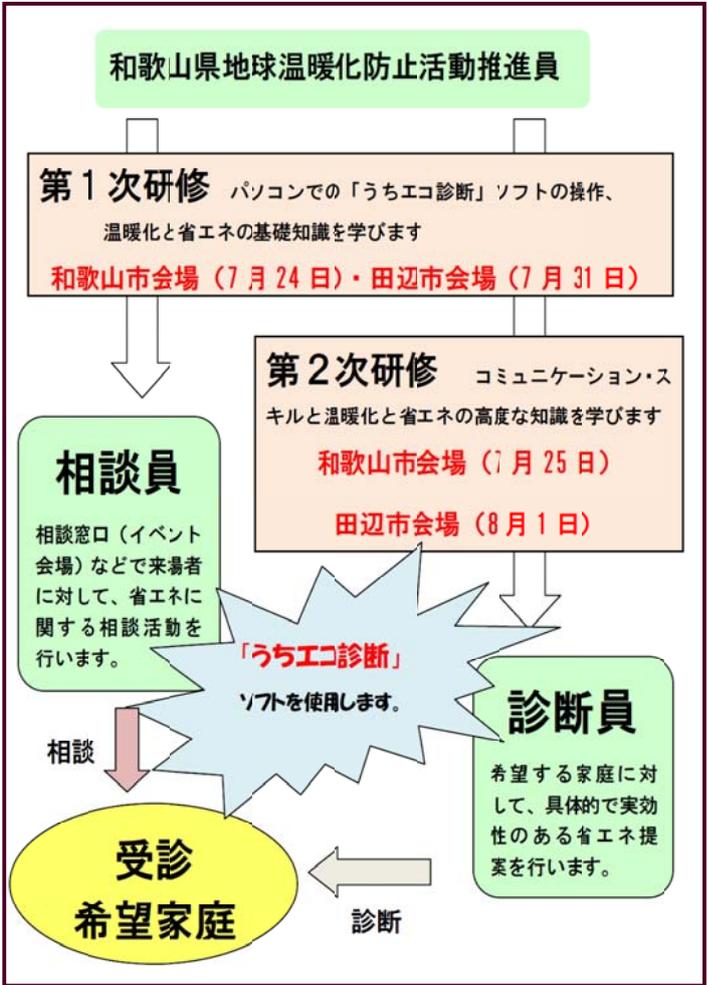
東高校でのワークショップ

# センターの新事業「うちエコ診断」で 診断員・相談員を募集!

家庭のCO2排出削減を目指して、希望する家庭に対して診断と提案を行う「うちエコ診断員」と「うちエコ相談員」を、和歌山県地球温暖化防止活動推進員の皆様から募集します。全国共通の「うちエコ診断ソフト」を使って、実効性のあるプランを提示することができます。詳しくは、「うちエコ診断員・相談員募集要項」をご覧ください。



うちエコ診断ソフトの一面面。電気使用量などのデータを入力するとグラフになって結果が表示されます。診断活動は、診断を受ける方といっしょに画面を見て、対話をしながら進めていきます。



## 診断員・相談員募集要項・申込用紙

センターのホームページからダウンロードできます。

申込先 和歌山県地球温暖化防止活動推進センター  
電話 073-432-0234  
申込締切日 : 2010年7月15日

## 事務局だより

梅雨に入り、ジメジメと蒸し暑い日が続いていますが、ご機嫌いかがでしょうか。

いよいよ「環境フォーラム2010」の成功へ向け活動開始です。会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

- メルマガWENET発行中。  
—— 受信ご希望の方は事務局にご連絡ください。
- 今年度は推進員養成研修は行いませんが、お近くに「推進員になりたい」という方がいらっしゃれば、事務局にご連絡ください。

## 当面の日程・催し物等

- 7月2日(金) 大阪フェニックス見学会(要申込)
  - 7月14日(水) 環境フォーラム2010実行委員会
  - 7月21日(水) 定例学習会(水問題) 於:和歌山市ボラサロ
  - 7月24日(土) 「うちエコ」診断員研修①(和歌山市)
  - 7月25日(日) 同上②(和歌山市)
  - 7月29日(木) オフセットクレジット(J-VER)勉強会  
(於:県立図書館2F~別紙参照)
  - 7月31日(土) 「うちエコ」診断員研修①(田辺市)
  - 8月1日(日) 同上②(田辺市)
  - 8月11日(水) 定例運営委員会
  - 8月21日(土) 自然公園シンポ(主催:県、於:紀南文化会館)
- 事務局の盆休みは8月13日~17日です。この間、事務所は閉鎖いたしますので、よろしくお願い致します。



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第21号 (2010年6月28日発行)

発行: NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重柄 隆  
〒640-8269 和歌山市小松原通3丁目22 電話 073(432)0234 FAX 073(432)3881  
mail: wenet@vaw.ne.jp http://wenet.info/